

## 現 行 サ ー ビ ス の 課 題

### 町内巡回バスの課題

	現 況	課 題
<b>人口分布と人口動態</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村に比べ高齢化率は低く、免許の保有率が高い</li> <li>・東側地域は、人口集積が高く高齢化率は低い、鉄道北側や西側地域は高齢化率が高い</li> <li>・高齢化率の高い交通空白地域は、神流川河川沿いや、上里SA北側、国道17号北側の東部地区にみられる</li> <li>・通勤通学、買い物とも本庄市への移動が大きく、群馬県側（特に高崎市）への移動も多くみられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通サービスを必要とする地域の把握、抽出と必要なサービスの展開</li> <li>・移動特性に応じた公共交通サービスの提供</li> <li>・本町北部、西部における交通空白地区の解消</li> </ul>
<b>運行状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行コースは、6コースであり、運行頻度は低い。（1日4便、40～50分の運行時間）</li> <li>・土日祝日が運休で、運転手の体調により欠便の発生もある。</li> <li>・基本的に8時半から4時半までの運行であり、運行時間帯が短い。</li> <li>・神保原駅の運行時刻に応じたバスダイヤとなっていない。</li> <li>・路線バスとの乗換が図られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な運行頻度での交通サービスの提供</li> <li>・需要に応じた運行時間帯の設定</li> <li>・土日祝日の需要を考慮した運行ダイヤの設定</li> <li>・公共交通のネットワーク化の推進</li> </ul>
<b>利用状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日平均利用者数は40～50人で、便あたり約2人程度である。</li> <li>・コースにより利用者数の開きがあり、長幡西コース、長幡東コースは少ない。</li> <li>・高齢者の利用が約9割を占めている。</li> <li>・利用されているバス停、区間が本町中心部と大型商業施設に集中している。</li> <li>・利用時間が偏っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス運行情報の提供による公共交通の利用促進</li> <li>・需要に応じた運行サービスの提供</li> <li>・福祉バス（利用者制限）で9年間運行してきて、利用できないと認識している人が多い</li> </ul>
<b>運行車両</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行当初からバス車両の更新が行われておらず、車両の耐用年数を超過している。（ワンボックス車両3台）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた車両更新</li> <li>・適正な車両管理</li> </ul>

# 公共交通の基本方針

## 基本的な考え方

公共事業として公平なサービスを展開  
身の丈に合った公共交通サービスの提供  
コストバランスの高いサービスの選択

少子高齢化の進展による交通弱者の増加、税収の減少、補助金等の減少を念頭に支出を抑え、身の丈にあった公平なサービスを目指す

## 運行サービスの方向

移動ニーズにあった運行サービスの提供  
快適な日常生活を支える交通基盤の確立  
お出かけ機会の創出

行きたい施設（商業施設、病院）に行けるサービスを提供することにより、利用してもらえる公共交通を目指す

## 交通相互間の連携

交通機関**相互の連携**～ネットワーク化～  
乗り継ぎの不便感、抵抗感を小さくする  
「待たない」「濡れない」「飽きない」

公共交通機関相互の連携を図り、町内全域におけるサービス水準の向上を目指す

## 「上里スタイル」

『どこでも、だれでも、気軽に、利用できる交通サービス』

「どこでも」: 町内全域で**どこでも**利用できる

「だれでも」: 利用制限も登録も必要なく**だれでも**利用できる

「気軽に」: 来たバスに乗って均一料金で**気軽に**利用できる

## 平成26年度 上里町地域公共交通サービス計画の策定

### 策定理由

- ・現在運行している町内巡回バス車両の老朽化への対応
- ・上里町における公共交通の必要性を確認し、住民が望んでいる「上里スタイル」を検討する

### 策定経緯

- ・少子高齢化の進展が明らかな中、高齢者を中心とした交通弱者の日常生活の移動確保が課題となる
- ・現在運行している町内巡回バスの利用率が低く、持続的な公共交通を構築していく必要がある
- ・ワークショップや意向調査などで住民の意見を十分に反映した検討を行う必要がある
- ・運行基本方針案の決定

### 運行方針

## 町内巡回バス強化型による継続

#### ア 現行の町内巡回バスの運行経路・時刻表の見直しを行う

- ・利便性を高め、需要に応じたルート設定

#### イ 今回は、タクシー助成やデマンド型との複合型の導入は行わない

- ・サービス形態の複合化は経費の負担増などがあり行わない

#### ウ 今回は町外への乗り入れは行わない

- ・施設選択や利用されない場合のリスクを考慮し町内の運行とする

#### エ 有償運行とする

- ・受益者負担、地域公共交通協議会設置による議論の場が得られるため

#### オ 高齢者を中心とした交通弱者のニーズ、目的地を反映する

- ・利用してもらうため、利用者のニーズにあったサービスを目指す

#### カ 運行日は現行（平日5日、年末年始運休）より拡大する

- ・今後、検討が必要であるが、現行よりサービス水準を向上させる

#### キ 運行時間は現行（午前8時30分から午後4時30分）より拡大する

- ・今後、検討が必要であるが、現行よりサービス水準を向上させる

# ル ー ト 概 念 図

ワークショップや意向調査でニーズの高かった商業施設を結び、サービス水準の高い基幹ルートとする。その他は南北の支線ルートでカバーし、移動する機会の維持、確保を担う。

